



※以上すべて文部科学省

1 2. 宇宙科学・探査

2020年度末までの取組状況・実績

- はやぶさ2は、実施計画（地球近傍への帰還、カプセル・サンプル回収、サンプル分析の準備等）に基づく活動を実施するとともに、拡張ミッションの検討を進めている。
- X線分光撮像衛星（XRISM）及び小型月着陸実証機（SLIM）は2022年度打上げ、火星衛星探査計画（MMX）及び深宇宙探査技術実証機（DESTINY+）は2024年度打上げを目指し開発を進めている。
- 宇宙マイクロ波背景放射偏光観測衛星（LiteBIRD）、赤外線位置天文観測衛星（小型JASMINE）の計画を情勢を踏まえて見直した。また、公募型小型計画として高感度太陽紫外線分光観測衛星（Solar-C(EUVST))を選定し、計画具体化の検討を行っている。
- 超小型探査機での深宇宙探査に必要な技術及び日本の強みである冷凍機技術等について、フロントローディング（開発スケジュール遅延やコスト増を招く可能性のあるキー技術について一定の資源を投入して事前に実証を行う）を実施している。
- 欧州宇宙機関が実施する木星氷衛星探査計画（JUICE）への参画に向けた開発等、小型衛星・探査機やミッション機器の開発等の機会を活用した特任助教（テニュアトラック型）の制度及び小規模計画の機会を活用した人材育成を推進している。

2021年度以降の主な取組

- 宇宙科学・探査の着実な実施に向け、フロントローディングの成果を活用しつつ、我が国全体で戦略的なミッションを立案し、計画の規模や打上げ時期に柔軟性を持って開発を進めるとともに、フロントローディングを引き続き実施する。
- はやぶさ2について、サンプルの初期分析を行うとともに、はやぶさ2の残存リソースを最大限活用し新たな小惑星の探査等を目標とする拡張ミッションを行う。
- X線分光撮像衛星（XRISM）及び小型月着陸実証機（SLIM）は2022年度の打上げ、火星衛星探査計画（MMX）及び深宇宙探査技術実証機（DESTINY+）は2024年度の打上げを目指して開発を進める。
- 宇宙マイクロ波背景放射偏光観測衛星（LiteBIRD）、赤外線位置天文観測衛星（小型JASMINE）及び高感度太陽紫外線分光観測衛星（Solar-C(EUVST))の計画具体化を行う。
- 欧州宇宙機関が実施する木星氷衛星探査計画（JUICE）及び二重小惑星探査計画（Hera）への参画に向けた開発等を進めるとともに、NASAが実施するRoman宇宙望遠鏡、ロシア宇宙機関が実施する国際紫外線天文衛星（WSO-UV）への参画に向けた検討を進める。
- 小型衛星・探査機やミッション機器の開発等の機会を活用した特任助教（テニュアトラック型）の制度及び小規模計画の機会を活用した人材育成を引き続き推進する。